

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・売上が前年比で106%、来客数108%と好調である。来客数の増加が売上を引っ張っている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・エコポイントと地上デジタルの効果に期待している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・当社独自のプレミアム付き商品券及び地元商工会議所のプレミアム付き商品券の発売等で相当の来客数がある。ただ、客は慎重な買物をしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・価格を安く提供すればそれなりの販売数量を見込める状況だが、品質が良くても安くないと売りにつながらない。大幅に価格の見直しが進んでいる。
		コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・新しく弁当を開発したり、700円以上買う客には抽選券をつけるといったイベントを行っており、売上が少しだけ良くなっている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・前年比で見ると、婦人服売上高は127.7%でありながら、販売客数66.7%、販売数量63.2%と、ちぐはぐな結果になっている。1人当たりの購買数は94%の1.33着で、今月に限り販売単価が大きく上がっている。全体の売上高は105%で、4月以降3か月間は全て前年を上回っている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・定額給付金の給付による消費行動は感じないが、エコポイントに係る消費行動は顕著に現れている。冷蔵庫、薄型テレビなどは単価が上昇している。エアコンに関しては天候に左右されているが、暑い日が続き、購買が促進されて単価が上昇している。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・車のエコ減税、補助金の受付が始まり、客が車を買う意欲が高まり、販売量の増加につながっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・5月末で善光寺の御開帳が終了し、6月から落ち込むだろうと思っていたが、それほど落ち込まず、宴会の動きもフリーの客も割と堅調である。客単価がそれほど良くないので売上の伸びはあまり無いが、全体的に人が出ている。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・前年と比較すると、半数を占めていた海外からの訪日団体が新型インフルエンザや円高の影響により大幅に減少しているものの、その反面、高速道路料金引下げのためかマイカー客の入込が好調である。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・週末に関しては、客の動向が以前より増えてきており、従来の夏と変わらないような来客数となってきている。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・来客数が前年を上回っている。
		変わらない		商店街（代表者）
商店街（代表者）	単価の動き			・定額給付金の給付があり、財布にゆとりが出来ている。単価が上がり、客の顔に笑みが見え始めている。
一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子			・定額給付金の給付があったが、旅行等に使われ、地元には落ちない。周りの様子を見てみると、必要な物しか買っていない。
一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子			・今の状況に慣れたのか、諦めたのか、客の様子に変わりはない。エコポイントが徐々に浸透しつつあり、売上、景気回復に望みを持ちたい。
百貨店（営業担当）	販売量の動き			・客の買う金額が減っており、余分な物は買っていない。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き			・先月に引き続き高額品の動きが少ない。また、まとめ買いが少なく、客単価が上がっていない。
スーパー（経営者）	競争相手の様子			・更に価格競争の激化が進行している。
スーパー（総務担当）	販売量の動き			・食料品関係については、前年度の売上が見えて来るような状況がここ数か月続いているが、衣料品については、3か月前、半年前と変わらず、非常に悪い状況で、前年の80%台が続いているおり、トータルでも前年に少し届かない状態が続き、少し悪い中での横ばいという形である。

スーパー（統括）	来客数の動き	・来客数、買上点数は戻って来ている。単価については、健康志向商品などが伸びをみせているが、衣料品の下落の底が見えず、全体としては依然低下傾向にある。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・月曜日の人の動きが以前より多少良くなっている。
コンビニ（店長）	単価の動き	・天候と時期的なもので、先月、先々月と比べて若干伸びているが、陽気とか期間の特徴で伸びているという程度で、特別大きく景気が上向いているという感覚は無い。来客数は割合増えているが、単価のほうは、若干下がっているの、特別動きはあまり変わっていない。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・売上高が前年比で7%減少し、購買客数が約4%減少している。
乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・車両販売に関して、販売車種が偏り過ぎている。また、売場面積の縮小や、展示車両を少なくする傾向にある店が多くなっている。
住関連専門店（店長）	来客数の動き	・来客数に関してはこのところ横ばいだが、買上点数、並びに1品単価の下落傾向が続いている。
住関連専門店（仕入担当）	販売量の動き	・買上点数についての傾向は変わらず厳しい。来客数などはわずかではあるが上昇傾向になりつつあり、今後はやや期待が持てる。相変わらず地域間の格差は大きく、工業団地を商圈に抱える店舗は苦戦が続いている。
住関連専門店（開発業務責任者）	販売量の動き	・来客数の減少はないが、買上客数が顕著に減少しており、商業施設全体での買い回りも減っている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・昼間の客の動きは良くなっているように思えるが、飲み仲間的な客数が少なく、単価が伸びない。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・売上は前年比ではやや少ないが、前月と比較すると同等である。
都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・前年まで、規定の料金、又はネット料金を正常な価格にしていたが、市内のホテルが今年に入って3,000、4,000円は当たり前という極端な数字を出して来ている。当社は、ようやく新年度になって市内の料金に合わせた状態で、出遅れてしまった状況である。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・客は低調傾向である。遊びたい傾向はあるがだめである。
旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・海外旅行、国内旅行共に受注は変わらない。週休3～4日だった企業も変わらない企業が多い。海外旅行においては受注減少の一途をたどっている。
タクシー運転手	販売量の動き	・個人の利用はやや回復傾向にあるが、法人は相変わらず経費削減に走り、利用が少ない。
観光名所（職員）	来客数の動き	・別荘購入希望者が現地見学にほとんど来ない。来客数が減少したまま推移している。
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数が昨年と同じである。
ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・イベントにより、集客には成功したものの、客単価の低下が激しい。人件費削減のため、臨時社員の出勤、退社の時間調整を密に行っている。
競輪場（職員）	お客様の様子	・来場者数、購買単価共に、ほとんど変化が見られない。
その他レジャー施設【アミューズメント】（職員）	販売量の動き	・他の業種と比べて、アミューズメント業界はそんなに落ち込みは無いが、来客数が戻っていない。特に明け方のひげが早く、ある程度の時間で閑散としてしまう。ひところの状態にはまだ戻っていない。
その他サービス【自動車整備業】（経営者）	来客数の動き	・前年並みとなった先月に引き続き、在庫量が減少している。いよいよ新車の減免措置での影響で大衆車と軽自動車への乗換えが続いている。車検入庫も前年比マイナス3%となっている。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・景気が底を打って、徐々に良くなるとの報道があるが、建設業界には良いニュースはまだ聞こえてこない。
設計事務所（所長）	来客数の動き	・先月は少し回復傾向にあったが、今月はまた元に戻ったようである。同業他社もそのようである。

	設計事務所（所長）	来客数の動き	・6月になって来客数が多くなったように感じるものの、内容は期待するほどではない。小さな仕事が多い。話も無かったことと比べればいくらかは良かったのかもしれないが、まだ景気が上向いたという実感にはほど遠い。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・来店数と電話の問い合わせが確実に減っている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注量は横ばいが続いており、特に良くなっているとも悪くなっているとも感じられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・学校の登山用品、臨海用品、水着用品などの注文が例年より少ない。やはり景気が悪いいため、客は必要な物以外は買っていない。
	一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・例年だと6月は梅の販売がかなり大きい割合を占めているが、今年はほとんど注文もなく、売れることもない。始まって以来最低の数字である。
	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・中元商品だけを見ると来客数、1件当たりの受注共に減少している。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・婦人服、紳士服等のアパレルはクリアランス前の買い控えが顕著であり、依然として厳しい状況にある。また、食品関連は比較的堅調で売上がけん引してきた感があったがここにきて失速している。中元ギフトが開始されたが法人需要の減少が目立ち、また個人の客単価の低下も目立っている。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・販促チラシの内容が競合他社を含め価格強調に変わり、セールが早まっている。商品購入状況も割引商品以外の動きはほとんど無い。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・依然として、販売量では環境にやさしい減税車両が売れている状況で、その他の車両は厳しい。景気も下降状況の話が多い。
	乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・本店では、ハイブリッドカーを扱っており、その売上は伸びているが、その客しか来ない。他のイベントを行っても、全く来客数が増えない。
	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・今、新聞、ラジオ等でとにかくエコ、ハイブリッドが優遇されており当店で取り扱っている大型輸入車は、新車、中古車共に全く販売できない。
	高級レストラン（店長）	販売量の動き	・予約の状況が悪く、前年比で約50%くらいしか確保できておらず、厳しい。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減っていると共に客単価が落ちている。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・企業として、プライベートでの利用回数が減っている。
	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・先の予約数が大変悪い状態が続いている。特にレストラン、宴会の予約が前年に比べて大きく減少している。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・長野においては、4月後半から5月にかけて善光寺の御開帳ということで、非常に多くの客が来たが、6月に入った途端、田植えの時期ということもあり、人の動きがびたりと止まってしまっている。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新型インフルエンザの影響により顧客が大幅に減っている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・地元でタクシーを利用する人が少なく、他方面からの来客数、電車から降りる人も少なくなっている。
	ゴルフ場（業務担当）	来客数の動き	・単価の動きである。プレイ費の安いものに偏りがちなところがある。
その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	単価の動き	・徐々に単価が安くなっているため、売上が減っている。前年比、前々年比でも、約1割くらい減少しており、おのずと単価が安くなっている。来客数が増えているために安くなるという現象だが、来客数が増えた分だけの売上が見込めていない。	
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・地元客がとて少なく、理由の多くは基幹産業の自動車関連企業と思われる。流れてくるうわさ話もネガティブなことばかりである。そこで働く従業員も所得の実質減となり生活も苦しいようで、賃貸住宅事情もとても厳しい状況で空室が増えてきている。	
悪くなっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今月に入ってから、急に売上の減少がひどく、特に、デリカ、デザート類の落ち込みがひどい。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・単価の安いものを望む客が多く、品質の良い物を並べても売れない。

		スナック（経営者）	競争相手の様子	・競争相手が増え、客が減っている。ともかく良くない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型インフルエンザの影響で5、6月の海外旅行の予約は半数以上キャンセルとなっている。メディアの影響が大きい。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・今月は先月の新型インフルエンザによる取消しなどの騒ぎは少し収まったが、これから夏に向けての予約、直近の国内の動きがない。団体、法人についてもキャンセルは出ていないが、新しい動きがないので非常に苦戦している。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・特に、金曜、土曜の深夜の動きが悪く、前年比21%の減少である。
		ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・高速道路料金引下げが始まってから、ますます街中に来る客が減っている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・今月は労働保険料を納めるために金策をしなければならぬなどと聞かされると、来客数が減っている理由も分かる。売上は来客数で決まるので今月も厳しい。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客の設備投資の見込みが減少している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・相変わらず地方の景気は非常に悪い。不動産等の引き合いも全くなく、アパート等の入居率も悪く、低迷が続いている。安い物件があちこちにあるので、中古住宅等については若干引き合いも出ているような感じもするが、なかなか成約には至らない。また、銀行融資が厳しくて客がローンを組めないというのも一つの要因である。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・まだまだ十分な受注量は確保できないが、一時帰休を取り止めて生産を再開する客先も出てきており、力強さはないものの、在庫調整を終えたところから動きは出て来ている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前は前年比約40%減少であったが、6月の受注量については、前年比マイナス25%と減少幅が減ってきている。
		その他製造業【環境機器】（経営者）	受注量や販売量の動き	・期待している大型の環境装置の商談が増加している。納入先への視察も活発になっている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・エコポイント関連の恩恵で、自動車や家電等の輸送依頼は、大幅に増えている。全体的には、前年をどうにか確保する状況である。ただし、荷主より運賃値下げ交渉等が出ており、厳しい状況が続いている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・個人消費や設備投資に大きな変化がない中で、消費者や需要側の商品選択、購買先や業者の選択の目が厳しくなっており、企業の選別が進んでいる。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・店頭商品受注はいくらか動いているが、特注品については全く動きがない。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業の前倒しの中で見積案件が出てきており、やや明るい兆しが感じられる。
		金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・販売する場合の値段が5%引きと客から言われており、引いた価格で仕事をしているので利益率が悪い。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部のカメラ、自動車関係は若干仕事が出てきているが、総体的には受注がほとんどない。
		新聞販売店【広告】（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月のチラシ出稿量は92%で24か月連続して前年を下回っている。景気の底を脱したとの発表もあるが、広告主は依然として慎重である。
		その他サービス業【情報サービス】（経営者）	受注量や販売量の動き	・まだまだ引き合い案件の保留、延期が多く、先行きを懸念している経営者が多い。
	やや悪くなっている	食料品製造業（製造担当）	受注価格や販売価格の動き	・商品価格を1割落として販売し始めたが、消費者は県外の半値ほどの商品を購入している。特に安い物に向かう傾向が出て来ている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月以降、売上が毎月最悪を更新している。自動車の一部は1割くらい仕事が出て来たが、全般的には下げ止まりが見られない。

		金融業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の話によると、多くの契約の交渉が難航しており、仕事の受注回数や受注金額が減少し、契約解除の話も出てきている。
		社会保険労務士	取引先の様子	・一時期より退職の手続きは減っているが、その一方で採用の動きがないのでまだ厳しい。
悪くなっている		化学工業（経営者）	それ以外	・親会社の業績悪化の理由で、出向者が出戻りになって来た。自分の社内で仕事が無い上に、更に人件費の負担も重なって非常に辛い。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・工作機械は設備投資の関係で受注も最悪のまま全く動きがない。産業機械、コンプレッサー、空圧の大型中型は、小さい機種にこのところ動きが出てきている。特装車両も公共工事の関係で良くなるような話だが、結果にはまだ出ていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・部品の受注量が半減近くまで落ちている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・一部の業種では受注等回復傾向が見られると報じられているが、当業界は仕事量の減少が続いており、深刻な状況となっている。
		その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	受注量や販売量の動き	・展示会を行っても軒並み来客数、売上が減少しており、展示会そのもの中止も多くなっている。仕入ストップは相変わらず続いている。消費者のマインドが下がっており、売上の回復は見込めない。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業は相変わらず5社以上の抽選になっており、すべてはずれてしまったので大変厳しい。6月末の時点の受注高は81.7%、4～6月は前年比の5%となっている。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・年内撤退や店舗閉鎖の情報が急が増えてきている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・事業主都合による解雇数の動きに若干なりとも変化が見られている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・衣料品と食品販売等の求人募集は活発であるが、製造関係は依然として募集が少ない。食品関係と中元ギフト等の加工品、販売員などが若干目立ってきている。
		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・1～3月期に底入れ感があり、雇用回復は無いが景気回復傾向にある。雇用は底である。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・現在求人情報誌の多くの媒体の募集が激減したままであり、仕事を探すのが困難である。ハローワークに行っても面接できる企業がほとんど無い。50歳以降は特に厳しく、職種を選ばなくても働けるところが極端に少ない状況が続き、先行きは不透明のままである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・企業側の雇用に対する動きが鈍い。本格的な景気回復には程遠い現状から、中小企業を中心として従業員の採用についての前向きな様子がうかがえない。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月の新規求人数は4月より減少している。前年比での減少が続き、求人倍率も最低水準が続く。
	悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・企業から頼まれる仕事がほとんどない。非常に苦しい。
学校 [専門学校]（副校長）		求人数の動き	・専門課程の求人社数、求人者数共に一向に増えない。また高等課程への求人依頼も非常に少ない。	